

# INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

**HP記事随時更新中(サーキュラーより早い)!**

**求人記事・集会案内記事大募集中!!**

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| ■ 第14回国際発生生物学会大会(第34回日本発生生物学会大会)のお知らせ | 1  |
| ■ 会長および運営委員選挙結果                       | 3  |
| ■ 会長二期目就任の御挨拶                         | 4  |
| ■ DGD編集委員会より                          | 5  |
| ■ 日本細胞生物学会第54回大会の開催案内                 | 6  |
| ■ 研究助成金・各種募集案内                        | 6  |
| ■ 公益信託・團生物科学国際基金助成事業終了に際して            | 11 |
| ■ ポスドク募集の案内                           | 12 |
| ■ 会員異動                                | 17 |
| ■ 入会案内・広告掲載のお願い                       | 21 |

## NO.97

DECEMBER 2000

### 日本発生生物学会

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科生物学

会 長：〒 606 京都市左京区北白川追分町  
-8520 京都大学大学院生命科学研究科  
竹市雅俊 (Tel: 075-753-4196)  
(Fax: 075-753-4197)  
(e-mail: takeich @ take. biophys. kyoto-u. ac. jp)

DGD編集主幹：〒 153 東京都目黒区駒場3-8-1  
-8902 東京大学大学院総合文化研究科生命系  
浅島 誠 (Tel: 03-5454-6632)  
(Fax: 03-5454-4330)  
(e-mail: asashi @ bio. c. u-tokyo. ac. jp)

事務局：〒 980 仙台市青葉区荒巻字青葉  
-8578 東北大学大学院理学研究科生物学教室  
Tel: 022-217-3489 Fax: 022-217-3489  
e-mail: jsdb@jcasj.or.jp  
(幹事長) 井出宏之 (Tel: 022-217-6691)  
(庶務幹事) 田村宏治 (Tel: 022-217-3489)  
(会計幹事) 出口竜作 (Tel: 022-214-3413)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込5-16-9  
-8622 財団法人 学会事務センター  
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)  
e-mail: jsdb @ bcasi. or. jp

日本発生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面またはe-mailでお問い合わせ下さい。なおDGDにつきましては直接、ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

### サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年3回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

# 第14回国際発生生物学会議 (第34回日本発生生物学会大会)

会 期：2001年7月8日（日）～7月12日（木）  
会 場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）  
組織委員長：竹市 雅俊

京都大学大学院生命科学研究科

使用言語：英語

OPENING LECTURES：Developmental Biology of the 21st century: its opening

(Chair, Masatoshi Takeichi)

Fredrich Bonhoeffer

Michael Freeling

Elizabeth Robertson

Masatoshi Takeichi

SPECIAL SESSION：Historical synthesis of developmental biology

(Chair, Masukichi Okada)

Walter Gehring

Tokindo S. Okada

※ 16 シンポジウム、9 ワークショップ、ポスターセッションが行われます。

プログラムなどについての詳細は下記URLをご覧ください。

演題受付：下記URLからのOn-line登録にて受付けています。

2001年1月15日（月）正午締切

参加受付：①事前登録：2001年4月30日（月）まで

登録費 一般 30,000円 学生 20,000円 同伴者 5,000円

下記URLからのOn-line登録、もしくはPDFファイルの登録用紙をダウンロードしファクシミリにて登録して下さい。

②当日登録：2001年4月30日（月）以降

登録費 一般 35,000円 学生 25,000円 同伴者 5,000円

※一般の発表はポスター形式を原則としますが、一部はシンポジウム/ワークショップでの口頭発表に採択される予定です。

※インターネットによるアクセスが不可能な方、ご不明な点などございましたら事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ先：第14回国際発生生物学会議事務局

〒541-0047 大阪府中央区淡路町3-6-13 コングレビルディング

(株) コングレ内

TEL：(06)6229-2555 FAX：(06)6221-3071

URL：http://www.congre.co.jp/icdb/

E-mail：isdb@congre.co.jp

# 発生生物学会・会員各位

## 第14回国際発生生物学会組織委員会

すでにご承知と思いますが、来年の第34回の発生生物学会は第14回国際発生生物学会と合同で7/8～7/12にかけて京都の国際会議場で開催されます。つきましては、演題の申し込みの締め切りは、従来より早く1月15日となっていますのでご注意ください。学会への参加登録と演題の申し込みは、完全Web投稿となっています。今回の完全Web投稿にむけて、第32回の神戸大会(従来の紙投稿が主でWeb投稿を副)と第33回の高知大会(Web投稿が主で従来の紙投稿が副)と段階的に試行を重ねてきたわけですが、今回はそれらの反省とアンケート結果を活かしてできるだけスムーズに投稿できるよう改善しています。ご協力のほどよろしくお願いします。

なお、学会の案内のページへは <http://www.bcasi.or.jp/jsdb/> で発生生物学会のホームページに入り、そこから<国際発生生物学会大会案内>の項目をクリックすると入ることができます。また、<http://www.congre.co.jp/icdb/> から直接<第14回国際発生生物学会大会>のホームページに入ることができます。

プログラムは、プログラム委員会によって編成されたシンポジウムとワークショップ、および一般申し込みのポスター発表によって構成されます。一般演題は基本的にはポスターですが、シンポジウムやワークショップでの口頭発表を希望することができます。希望者の中からプログラム委員会で選ばれた方が口頭発表することができます。どしどし応募してください。

特に投稿の際に注意が必要な点を箇条書きにしてみました。

1. Requiredと書かれた項目に記入漏れがあると登録受け付けがされません。
2. 筆頭著者が発表演者と異なる場合もありうるので、投稿者の氏名・連絡先を登録してもらうことにしています。この登録された方が事務局から問い合わせの際の連絡窓口となります。
3. 発表者(連名を含む)と所属と演題名と要旨がデータベース化され、それをもとに要旨集の原稿が作成され印刷にまわされます。また、印刷スペースが限定されているために、それらを全部ひっくるめて200単語という制限がついているのでご注意ください。
4. 登録後に変更することは可能ですが、パスワードを覚えておかないと自分の投稿したファイルを開くことができません。新たな投稿をしてしまうと、違う演題として登録され大きなトラブルとなります。ご注意ください。

投稿のページにある注意書きに従いながらスムーズにデータ入力できることを期待して

います。要旨集はDGDを発刊しているBlackwell社で印刷され、会員には学会前に発送されます（住所変更などのある方は早めに学会事務センターへ連絡願います）。また、プログラムは要旨集の発送前にホームページ上で閲覧できるようにします。

## 日本発生生物学会第17期（2001年1月～2002年12月） 会長および運営委員選挙の結果報告

選挙管理委員長 松 崎 文 雄

### 会長選挙

第1次選挙結果（9月11日開票）

投票総数：218票

無効票：0票

有効票数の過半数を得た者がいなかったため、会則により上位3名（浅島 誠会員、佐藤矩行会員、竹市 雅俊会員）を候補者として第2次選挙を行なうこととした。

第2次選挙結果（11月2日開票）

投票総数：422票

無効票：0票

この結果、会則に基づき竹市 雅俊会員が会長に選出された。

### 運営委員選挙

有効投票総数：2897票

当選者（50音順、敬称略）：

阿形清和 井出宏之 大隅典子 岡野栄之 黒岩 厚  
小林 悟 近藤寿人 佐藤矩行 高橋淑子 武田洋幸  
野地澄晴 藤沢 肇 星 元紀 八杉貞雄

次点：倉谷 滋

## 会長二期目就任の御挨拶

京都大学大学院生命科学研究科 竹 市 雅 俊

この度、会長の役目を継続させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。この11月、いつもの年なら、変わり行く木々の葉の色合いや、晩秋を飾る野菊の咲き具合などに気を惹かれている最中なのですが、今年はどうやらパソコンと睨めっこをしている間に、季節が通り抜けていく感じがします。発生生物学を取り巻く環境は、とても忙しいものになってきました。

第14回国際発生生物学会は、皆さまのお力添えのおかげで着々と準備が整いつつあります。登録、講演要旨投稿等をすべてオンラインで行うことにしたため、新しい方式のセットアップのために関係各位にはひとかたならぬ御苦勞をおかけしました。プログラム作成においては、プログラム委員の御努力により、多彩な顔触れのシンポジウム・ワークショップ演者が揃いつつあり、大会の開催が大いに楽しみです。しかし、本大会を真に実りあるものにするためには、一般演題の充実こそが最も大切です。是非とも、できるだけ沢山の会員にご参加いただきたく、よろしくお願いいたします。また、学会員以外の方も自由に発表できますので、関連分野の方々をお誘い下さい。

政府のミレニアムプロジェクトの一環として、発生・再生研究分野がサポートされることになりました。同時に、我々自身の社会的責任も重くなったわけで、次世紀の発生生物学はどうなるか？どうあるべきか？といった質問がより頻繁になり、それに答えていく必要があります。また、クローン技術や幹細胞技術の利用に関する倫理的議論が盛んになっています。我々は、この種の技術を生み出した分野の専門家として、このような社会問題に対しても確固たる見識を持つ必要があります。発生生物学は、どちらかといえば地道で純自然科学的な歩みを続けてきましたが、応用分野からの注目を浴びる時代を迎え、アカデミズムを尊重する一方、自分の学問と社会とのつながりを、今まで以上に意識すべき時がきたわけです。私個人は、自然のメカニズム研究が好きですが、今後の発生生物学の潮流は？というような問を寄せられた時、再生医療への応用というようなテーマが目玉の一つであることに間違いはありません。この分野においても、より深いメカニズム研究と、新しい応用研究とが、相互交流しながら並進するという新時代を迎えたのではないのでしょうか。

さらに、ポストゲノム研究、バイオインフォマティクスといった別の新しい波が押し寄せてきており、生物科学における情報と方法が革命的に変わりつつあります。このような変革期は、柔軟な頭脳を持った若い人達が新しい研究の流れを創造すべく好機です。奮起を期待します。しかし、イモリの足がどうして再生するか？といった研究が世の役に立

つとは、昔はだれも真剣には考えなかったと思うので、時代も変わったものです。

私が一期を務めさせていただいている間に、事務局が東京都立大学・八杉研究室から東北大学・井出研究室に代り、また、DGD編集主幹が、広島大学・嶋田先生から東京大学・浅島先生に交代されました。お仕事を終えられた先生方には、この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。また、新しくお引き受け下さった先生方は意欲に燃えて仕事をこなしてくださっています。実に変なご負担をおかけしておりますので、皆様のご支援よろしく願いいたします。

さて、次の2年間にも、今は予測できないような、新しい事態が生ずるに違いありません。それはそれとして、予定内のこととしては、2002年の発生生物学会大会は、細胞生物学会大会と会期を接しあいながら、一部を合同で行うことが予定されています。個々の分野が、より総合的な生物科学として発展するのは必然であり、この種の企画を積極的・建設的に受け止めていただければありがたいと思います。以上、二期目会長就任のご挨拶と代えさせていただきます。

## DGD編集委員会より

DGD編集主幹 浅 島 誠

日本発生生物学会が刊行している国際英文誌Development Growth & Differentiationはこのところ国内外から質の良い投稿論文も多くなり、impact factorも着実に上がっています。それゆえ、会員の皆様方も振るって良い論文を投稿して下さい。日本から世界に発信することのできる数少ない国際誌の一つです。Blackwell社も力を入れてくれています。又、43巻(2001年)からは各号ごとにできるだけ少なくともreview articleを一つは掲載したいと思っていますので、review editorsの他に、個人的にも各人、どしどし御自分のお仕事をまとめてDGD編集主幹の方にお送り下さいますようお願いいたします。DGDではjournalの質の向上のためにカラー写真は4枚までは著者にはfree(無料)になっております。またon line化もかなり進んでいますので、国際誌として広く読まれています。

# 日本細胞生物学会第54回大会の開催案内

日 時：平成13年5月30日（水）～平成13年6月1日（金）

（今年から開催時期が秋から春に変更になりました）

場 所：長良川国際会議場（岐阜県岐阜市）

応募方法：インターネット（郵送も可）

応募期間：平成13年3月1日～3月30日（郵送の場合は15日必着）

連絡先：第54回日本細胞生物学会大会事務局

岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所

細胞内エネルギー変換機構研究部門内 （吉森 保）

〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38

Phone 0564-55-7519 or 7517

FAX 0564-55-7516

E-mail yosimori@nibb.ac.jp

なお、詳細は次のホームページを御覧下さい。

URL：<http://www.nacos.com/jscb/>

## 山田科学振興財団2001年度研究援助候補者推薦要項

### 援助の趣旨および内容

1. 本財団は、自然科学の基礎研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件あたり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考致します。
3. 援助金を給与に充てることは出来ませんが、特に財団が選定した場合を除き、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の計2年間とします。

### 推薦方法

- イ. 推薦者：本財団が依頼した学（協）会の代表者
- ロ. 推薦件数：1推薦者ごとに2件以内



ハ、推薦手続：推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。（推薦用紙は学会事務局（東北大学内）にあります。お問い合わせ下さい）。

1. 所定の推薦用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 4部
2. 添付書類（件学（'01）～5／8ページ参照）

### 記載上の注意

- イ、紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加してください。
- ロ、代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込をすることについての承諾を得てください。

### 推薦締切日（学会締切）

2001年2月30日（財団締切の一月前）学会事務局（東北大学内）必着とします。

### 選考方法

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

### 選考結果の通知

2001年7月末までに推薦者及び代表研究者等あて文書にて通知します。

### 援助金の贈呈

選考結果の通知後適時銀行振り込みにて贈呈致します。

### 推薦書送付先

学会事務局（東北大学内）まで郵送にて御送付下さい。

### 研究の成果及び会計の報告

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出及び研究交歓会での発表をして頂きます。

### 付記

- イ、援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得てください。
- ロ、研究成果を文書によって発表される場合には、本財団（財団法人 山田科学振興財団、Yamada Science Foundation）の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷り1部、また著書の類にあってはその1部をご寄付願います。

ハ、ご提出いただきました推薦書及び添付書類は、お返しいたしません。

二、選考にあたり考慮される点

萌芽的研究

大学に新研究室を創設して間もない場合

学際性の豊かな研究

国際協力研究

財団法人 山田科学振興財団

(Yamada Science Foundation)

〒544-8666 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話 大阪(06)6757局3311 (代表)

## 第42回藤原賞受賞候補者ご推薦依頼

財団法人 藤原科学財団

謹啓、いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。

財団法人藤原財団は、故藤原銀次郎翁が寄付された私財を基金として、昭和34年に創設されたものであります。我が国に国籍を有し、科学技術の発展に卓越した貢献をされた方に、昭和35年以来、藤原賞（賞状、賞牌および副賞）を毎年贈呈してまいりました。賞は2件とし、副賞として各1千万円を贈呈しております。

今回引き続き第42回受賞候補者を募集いたします。つきましては、ご多忙中恐縮に存じますが、下記事項ご覧の上、適当な候補者をご推薦下さるようお願い申し上げます。

第42回選考委員は次の通りであります。

杉村 隆（委員長）、近藤 次郎、植村 泰忠、松井 正直、西村 暹、佐藤 勝彦、  
小原 實、干鯛 眞信、長澤 寛道、永井 良三（敬称略、順不同）

敬 具

### 記

1. ご推薦の対象は、自然科学分野に属するものとします。
2. 被推薦者は、日本に国籍があり日本在住の方であれば、ほかに賞を受けられた方でも、

また前に推薦された方でも結構です。

3. 被推薦者は原則として推薦題目1件につき1人とします。
4. 推薦要項書(No.1、No.2の2枚、コピーでも可)に、必要事項を記入して発生学会事務局までお送り下さい。(推薦要項書は事務局にございます。お問い合わせ下さい)。なお、参考資料として、被推薦者の推薦題目と関係する主要論文10篇以内のリストおよび別刷(3篇以内、コピーでも可)を各1部ずつ、同封してお送り下さい。  
この資料はご返却いたしませんので、ご了承願います。
5. 受賞者の決定は平成13年5月中旬とし、贈呈式は同年6月11日(月)に行います。
6. 推薦要項書提出締切日(学会締切)

平成12年12月31日(日)消印有効とします。(財団締切の一月前)。

学会事務局(東北大学内)まで。

7. 問い合わせ先 〒104-0061 東京都中央区銀座3丁目7番12号  
(王子不動産銀座ビル)  
財団法人 藤原科学財団 TEL(03)3561-7736  
FAX(03)3561-7860

以上

## 平成13年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が1998年11月から開始され、本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では、微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。

我が国は、国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟「きぼう」をもって参加しており、今後、このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。

一方、地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ、更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このように「きぼう」を中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

## ■公募制度の概要

大学、国立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。

### ●応募資格

応募者の国籍、所属機関の所在地（国内外）は問いませんが、日本語による応募及び面接に対応できる語学力を必要とします。

### ●公募対象研究分野

微小重力科学、微小重力物理学、生物科学、バイオメディカル、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発の8分野

### ●研究費、研究期間

- ・フェーズⅠ研究（A） 研究費：3千万円以下／年 研究期間：1～3年
- ・フェーズⅠ研究（B） 研究費：6百万円以下／年 研究期間：1～3年
- ・フェーズⅠ研究（B）萌芽的研究 研究費：150万円以下（総額）  
研究期間：1.5年
- ・フェーズⅡ研究 研究費：1千万円程度～1億円以下／年 研究期間：1～3年

### ●選定

財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。

### ●研究形態

研究形態としては、委託研究（大学、企業）、共同研究（国立研究所）、招聘研究の形態をとります。

### ●実験施設、試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

### ●スケジュール

- ・応募受付締め切り：平成13年2月28日（水）消印有効
- ・研究開始：平成13年8月～

● 問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム

公募研究推進部 募集担当

電話：０３－３４５９－１６５３ FAX：０３－５４７０－８４２６

URL: <http://www2.jsforum.or.jp/> E-mail: [koubo@jsforum.or.jp](mailto:koubo@jsforum.or.jp)

## 山田科学振興財団研究援助に関する審査結果

山田科学振興財団より２０００年度研究援助に発生生物学会からの推薦の内、以下の方に採用の報告がありました。(敬称略)。

| 代表研究者 | 研究主題                     | 援助金額<br>(万円) |
|-------|--------------------------|--------------|
| 田村宏治  | 四肢の進化とその多様性に関する<br>発生的研究 | ３００          |

## 公益信託團生物科学国際基金研究助成事業終了に際して

日本信託銀行公益信託團生物科学国際基金 信託管理人 酒 井 彦 一

日本発生生物学会 会員各位

既に、前号の本誌に本公益信託團生物科学国際基金に運営委員長、平本幸男氏と事務局の日本信託銀行株式会社、本店営業第一部営業第一グループ名で、掲載されましたように、当基金は１２年度の助成をもって終了となります。約１０年にわたり、この公益信託の研究助成事業を支えて頂いた学会の多くの方々に心からお礼申し上げます。

ご存じのように、当基金は生物科学の分野における研究者の国際的育成をはかり、生物

科学の発展と国際交流の促進に寄与するために、それまで同じ目的で国際交流が行われていた The Jean and Katsuma Dan Fellowship Program (生物科学・團・国際交流基金) にご賛同頂き、その基金を支えてくださった日本動物学会、日本発生生物学会、日本細胞生物学会などの諸学会所属の多くの方々をはじめとして、その後この公益信託の国際交流事業をご支援くださった方々のご芳志が含まれていました。前号でのお知らせのように、この公益信託の事業では、平成4年度より平成12年度まで16カ国79人の研究者へ助成を行ってきました。

振り返ってみますと、生物科学・團・国際交流基金として始まった約20年前から10年間は任意団体の国際交流事業として、日本から13名、アメリカから5名のDan Fellowが国際共同研究に参加され有益な経験を積まれました。その後、この事業は、日本信託銀行の公益信託・團・生物科学国際基金に移行し、上記のように多数の研究助成を行うに至りました。

ご存じのように、團ジーン先生は精子先体反応の発見者として、團勝麿先生は細胞分裂の先達として日本の生物科学の多くの分野に多大な貢献をされました。「渚の唄」や「ウニと語る」に如実に記されている国際交流に対するご夫妻の自然な姿や、自然を師をし、友とする科学者としてのお二人の後ろ姿を思い起こすとき、その教えを正面に受け止めてきた弟子どもの一人として、感慨余りあるものがあります。

幸いにして、この20年間の国際交流事業は多くの方々の暖かいご支援のお陰で無事終了することが出来ました。これは、ひとえに、日本国内はもとより、広く国際的に多くの学兄、学友のご厚情によるものと心からお礼申し上げる次第であります。また、本公益信託の研究助成選考業務に当たられた運営委員会の皆様方（委員長、平本幸男；委員、能村堆子、濱口幸久、星元紀、毛利秀雄の方々）の一方ならぬご努力とともに、事務局で多くの庶務を滞り無く処理頂いてきた日本信託銀行本店営業第一部営業第一グループの方々の絶え間ないご努力に心からお礼申し上げます。

## 理研発生・再生科学総合研究センター（神戸） ボディプラン研究グループ研究員、ポスドクの公募

グループ発足に伴い研究員、ポスドクを公募します。

（研究領域）

脊索動物での頭部誘導から前・中脳の領域化、終脳形成、頭部神経提細胞、頭部中胚葉に

関する個体発生ならびに系統発生学的研究。

(応募資格者)

- 1) 志もしくは野心のある方
- 2) 原則として35歳以下
- 3) 平成14年度9月迄に神戸に着任可能な方：早期に着任・研究開始可能な方を歓迎しますが、平成14年3月迄は熊本大学発生医学研究センターで研究していただくことになります。

(応募書類)

- 1) 履歴書
- 2) これまでの研究歴(2000字以内)
- 3) 主要な研究業績：無い場合は研究の抱負
- 4) 推薦書2通

(締め切り)

平成13年1月31日

(書類送付先)

〒860-0811 熊本市本荘2-2-1 熊本大学発生医学研究センター 相沢慎一

(問い合わせ先)

saizawa@gpo.kumamoto-u.ac.jp

## 三菱化学生命科学研究所・発生制御グループ ポスドク募集

◆研究内容：組織の形態形成や再生では細胞の増殖状態が時空間的に厳密に制御されます。この分子機構の解明を目指します。そのため、*jumonji*遺伝子による細胞周期調節遺伝子の転写制御機構、*p53*など他遺伝子による増殖の亢進・抑制・停止機構について発生工学、分子生物学、組織学を用いて解析します。なお、応募以前に研究内容を詳細にお知りになりたい方はぜひ、下記宛までご連絡ください。

- ◆参考文献：Genes & Dev. 9, 1211-1222, 1995; Mech Dev. 86, 29-38, 1999など
- ◆募集人数：1名
- ◆応募資格：当研究グループの上記のテーマに対し、意欲的に研究を展開できる35才以下の学位取得者もしくは2001年3月に取得見込みの方。発生生物学の研究の経験を有し、形態形成や細胞増殖に強い興味を持ち、生化学、分子生物学的手法に習熟している方がより望ましい。
- ◆勤務地：東京都町田市
- ◆待遇：月額40万円（2年目以降は認定により42万円）、社会保険、有給休暇有り
- ◆提出書類：（1）履歴書、（2）論文リスト、（3）これまでの研究の概要（自己の貢献部分を明確にし、かつアピールしてください）とこれからの抱負、（4）取得技術（一人でできるもの）、以上メールでの送付可
- ◆応募締切：決定次第締め切り
- ◆採用時期：平成13年4月1日
- ◆任期：1～3年
- ◆連絡先：〒194-8511 東京都町田市南大谷11号 三菱化学生命科学研究所  
発生制御グループ 竹内 隆  
TEL: 042-724-6267, FAX:042-724-6314, E-mail: take@libra.ls.m-kagaku.co.jp

## 文部省 バイオベンチャー研究開発拠点整備事業 「再構成医療プロジェクト」ポスドク研究員募集

藤田保健衛生大学総合医科学研究所では平成12年度より文部省バイオベンチャー研究開発拠点整備事業「再構成医療プロジェクト」をスタートさせることに伴い、以下のよう  
にポスドクおよびリサーチアシスタントを募集します。

テーマ：遺伝子導入により合目的な神経細胞に分化誘導した胚性幹(ES)細胞の移植  
研究内容：培養下においてES細胞を目的とする神経細胞に分化誘導し、その細胞を再び  
生体に戻すことによって神経系組織の機能回復を図る。  
研究期間：平成13年度～平成16年度



## 応募資格

ポスドク：平成13年4月1日時点において満35歳未満で、且つ博士号を取得している方（平成13年3月取得見込みでも可）

リサーチアシスタント：平成13年3月末時点で修士号取得あるいは取得見込みの方  
藤田保健衛生大学大学院医学研究科に入学が条件となります

\*ES細胞や神経細胞の分化に興味があり、分子生物学あるいは細胞培養の経験のある方を希望します。

募集人数：各若干名

募集期間：平成13年1月末締めきり

勤務地：愛知県豊明市 藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 応用細胞学研究部門

待遇：（ポスドク）本学園の規定による

（リサーチアシスタント）年額120万円程度

連絡先：470-1192愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98

藤田保健衛生大学総合医科学研究所 応用細胞学研究部門

教授 丸野内 隼

TEL:0562-93-9377 FAX: 0562-93-8834

e-mail: tmaru@fujita-hu.ac.jp

## 東北大学大学院医学系研究科器官構築学分野

ポスドクの募集

当研究室では、ポスドクを募集しています。

研究内容：

主に鳥類胚を用いて、神経幹細胞や神経堤細胞の非対称分裂、神経堤細胞の分化運命に関する研究を行います。

応募資格：

博士号取得者、もしくは取得見込みの方で、分子生物学、細胞生物学、発生生物学の経験を有する方。

応募方法：

とりあえず電話もしくはメールでコンタクトをとって下さい。

募集時期および採用時期、任期：募集は適当な人材が集まり次第閉め切りますので、

早めに連絡を。着任は早ければ平成12年10月1日、遅くとも平成13年4月1日で、期間は2年半から3年（着任時期による）。

待遇：

保険料などを引いた額で500～600万円程度／年。

問い合わせ先：

若松義雄

〒980-8575

仙台市青葉区星陵町2-1

東北大学大学院医学系研究科器官構築学分野

電話：022-717-8203

FAX：022-717-8205

e-mail：wakasama@mail.cc.tohoku.ac.jp

ホームページ：http://www.med.tohoku.ac.jp/~dev\_neurobio/index.html

# 会 員 異 動

## <新入会員>

| (氏名)            | (所属)                                                                                  | (住所)                               | (①テーマ、②材料)                                        |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------|
| (学)前田龍郎         | 東京都立大学大学院理学部生物科学科                                                                     | 〒192-0397 八王子市南大沢1-1               | ①発生遺伝学<br>②ショウジョウバエ                               |
| (学)光永佳奈枝        | 熊本大学発生医学研究センター臓器形成分野                                                                  | 〒862-0976 熊本市九品寺4-24-1             | ①mouse primordial germ cells<br>②Transgenic mouse |
| 平野 俊夫           | 大阪大学大学院医学系研究科腫瘍病理                                                                     | 〒565-0871 吹田市山田丘2-2                | ①体軸形成と原腸陥入の機構<br>②マウス、ゼブラフィッシュ                    |
| 貝守 昇            | 八戸工業大学                                                                                | 〒031-8501 八戸市大字妙字大開88-1            | ①幹細胞の分化能力<br>②ヒトラ・プラナリア                           |
| 新美 輝幸           | 名古屋大学大学院生命農学研究科資源昆虫学研究室                                                               | 〒464-8601 名古屋市千種区不老町               | ①昆虫の発生機構の多様性と分化<br>②テントウムシ・カブトムシ・ショウジョウバエ・カイコ     |
| 大塩 一郎           | (株)実医研                                                                                | 〒377-0931 吾妻郡吾妻町大戸3303-58          | ①器官再生<br>②両生類                                     |
| 久保 亮            | 科学技術振興事業団                                                                             | 〒332-0012 川口市本町4-1-8               | ①<br>②                                            |
| 上原真理子           | 帝京医学技術専門学校臨床検査科                                                                       | 〒151-0071 渋谷区本町6-31-1              | ①形態形成・細胞分裂・アポトーシス・染色体<br>②Xenopus                 |
| 上塚 浩司           | 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学教室                                                               | 〒113-8657 文京区弥生1-1-1               | ①マウス・ラットでの肝発生における肝幹細胞と血管系との関与について<br>②マウス・ラット・胎仔  |
| (学)前田卓哉         | 立命館大学理工学部物理学科                                                                         | 〒525-8577 草津市野路東1-1-1              | ①発生の理論的考察<br>②                                    |
| Nour Mohamed S. | Dept.of Surgery Obstetrics & Gynaecology, faculty of Veterinary Sci.,Univ.of Khartoum | Khartoum North, P.O. Box 32, Sudan | ①<br>②                                            |

## <会員資格変更>

### 学生→正会員

|       |              |                      |
|-------|--------------|----------------------|
| 田村 勝  | 国立遺伝学研究所     | 〒411-8540 三島市谷田1111  |
| 近藤 龍也 | 熊本大学附属病院代謝内科 | 〒860-8556 熊本市本荘1-1-1 |

### 国内→海外

|       |                                                        |                                       |
|-------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 二宮洋一郎 | Mammalian Development Lab., Dept.of Zoology            | South Parks Rd., Oxford OX1 3PS, U.K. |
| 八木 克将 | Tony Ip Lab., Program in Molecular Med.,UMass Med. Sch |                                       |

373 Plantation St., Rm. 109, Worcester, MA 01605, U.S.A.

池谷 智淳 Molecular Developmental Genetics, Zoological Inst., Univ. of Zurich

Winterthurer Str.190, CH-8057, Zurich, Switzerland

海外→国内

佐藤 陽子 聖マリアンナ医科大学泌尿器科

〒216-0015 川崎市宮前区菅生2-16-1

除名→復活

高木 豪 理化学研究所筑波研究所

〒305-0074 つくば市高野台3-1-1

安増 茂樹 上智大学生命科学研究所

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

<住所変更>

谷口 茂彦 愛知学院大学歯学部生化学講座

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100

細谷 浩史 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻/科技庁さきがけ研究2 1

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1

小室 広昭 筑波大学臨床医学系小児外科

〒305-8575 つくば市天王台1-1-1

木村 真

〒470-0353 豊田市保見ヶ丘3-206

藤谷 英男 麻布大学獣医学部分子生物学研究室

〒229-8501 相模原市淵野辺1-17-71

末盛 博文 京都大学再生医科学研究所発生分化研究分野

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

勝部 憲一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子病態学分野

〒113-8549 文京区湯島1-5-45

八木 健 大阪大学細胞生体工学センター

〒565-0871 吹田市山田丘1-3

阿部 訓也 熊本大学発生医学研究センター

〒862-0976 熊本市九品寺4-24-1

小藪 芳男 理化学研究所脳神経総合研究センター発生神経生物研究チーム

〒351-0198 和光市広沢2-1

宮谷 精二 理化学研究所

〒351-0101 和光市白子2-17-35

ライオンズマンション和光第2-601

服田 昌之 お茶の水女子大学理学部生物学科

〒112-8610 文京区大塚2-1-1

久保原 禪 群馬大学生体調節研究所生理活性物質センター

〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15

鏡味 裕 信州大学農学部食料生産科学科食資源利用学講座

〒399-4598 長野県伊那郡南箕輪村8304

澁谷 浩司 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子細胞生物学分野

〒101-0062 千代田区神田駿河台2-3-1

竹居光太郎 東邦大学医学部生理学第二講座

〒143-8540 大田区大森西5-21-16

高橋 弘樹 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所発生生物学研究系

〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38

笹井 芳樹 京都大学再生医科学研究所

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

梶原 一人 理化学研究所脳科学総合研究センター神経再生研究チーム

〒351-0198 和光市広沢2-1

大野 忠行 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器小児科

〒162-8666 新宿区河田町8-1

<退会>

|       |      |      |      |          |
|-------|------|------|------|----------|
| 田中徹哉  | 中山広樹 | 梅園和彦 | 東島眞一 | 森島正恵     |
| 明神未代子 | 山田耕平 | 高井裕之 | 梶原薫  | 永野(大迫)麗子 |
| 久野慎一  | 渋谷幸二 | 廉勝植  | 富田江一 | 安藤利夫     |

<除名>

|        |       |                   |                   |               |
|--------|-------|-------------------|-------------------|---------------|
| 井尻憲一   | 上原剛   | 岡崎嘉子              | 柿沼好子              | 野沢資亜利         |
| 佐々木直井  | 白井敏雄  | 本林由美子             | 野田幸一              | 能登民人          |
| 日野晶也   | 松谷悦哉  | 保田叔昭              | 山中八郎              | 花岡和則          |
| 清水裕    | 並木秀男  | 上田泰次              | 吉田理恵              | 麻生直           |
| 安増茂樹   | 菊山榮   | 宇野修正              | 奥野誠               | 羽畑祐吾          |
| 大森丘    | 徳永智之  | 三木清史              | 結城惇               | 横内裕二          |
| 浅賀宏昭   | 程久美子  | 高倉曉彦              | 民谷栄一              | 成田正見          |
| 葛原博幸   | 西澤真由美 | 吉田学               | 毛利孝之              | 北林一生          |
| 加藤逸郎   | 武藤彩   | 川野仁               | 天野寿一              | 対木尚           |
| 阿部道夫   | 澤本和延  | 菅野美津子             | 坪川達也              | 薄井一恵          |
| 正木全    | 三浦裕仁  | 野呂信弘              | 一色孝子              | 南相允           |
| 吉川真悟   | 檜原理史  | 宋敏鎬               | 栗崎知浩              | 矢沢隆志          |
| 馬場浩太郎  | 三宝誠   | 中川慎一郎             | 野村一也              | 郷正博           |
| 中野芳朗   | 星島一幸  | 向正則               | 勝又幹夫              | 野村和子          |
| 佐々木えりか | 岩井陽一  | 常定正信              | 村橋史朗              | 松本和幸          |
| 玉腰知子   | 中村直仁  | 安田陽子              | 渡辺剛               | 日比野拓          |
| 梅宮猛    | 坂本伊知郎 | 伊藤真由美             | 大道栄徳              | 水口惣平          |
| 藤田恭啓   | 渡辺英明  | 田渕克彦              | 武居明男              | 石丸善康          |
| 伊藤裕之   | 金藤直樹  | 太田正人              | 中田和人              | 川端広一          |
| 田中由岐子  | 城野英明  | 森英俊               | 等泰之               | 宇野健一郎         |
| 松本健    | 嘉糠洋陸  | DE SANTIS Rosaria | SALOMA Cynthia P. | YOON Yong Dal |

FLUCK Richard Allen

〔賛助会員〕

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1

-1125 TEL 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル

-0033 TEL 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11号

-8511 TEL 0427-24-6226

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205

-0033 TEL 03-3813-1073

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会  
会長 竹市雅俊

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生物学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生物学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物（会員名簿を含む）が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail:jsdb@bcasj.or.jp

一切-----り-----取-----り-----線

## 日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(                      □                      卅 )

住 所 \_\_\_\_\_

会 社 名 \_\_\_\_\_ (印)

担当者名 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

## 広告掲載のお願い

日本発生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

| 広 告 料     |     |       |          |
|-----------|-----|-------|----------|
| D G D 本誌  | 1 頁 | 年 6 回 | 150,000円 |
|           | 半 頁 | 〃     | 78,000円  |
| インフォメーション | 1 頁 | 年 3 回 | 90,000円  |
|           | 半 頁 | 〃     | 45,000円  |

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申込先：日本発生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail: jsdb@bcasj.or.jp

----- 切 り 取 り 線 -----

## 広告申し込み書

年 月 日

日本発生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| <input type="checkbox"/> D G D 本誌 | 1 頁 |
| <input type="checkbox"/> 〃        | 半 頁 |
| <input type="checkbox"/> サーキュラー   | 1 頁 |
| <input type="checkbox"/> 〃        | 半 頁 |
| 住 所                               |     |
| 会 社 名                             |     |
| 担当者名                              |     |
| 電話番号                              |     |

印

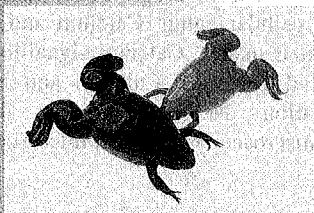


**XENOPUS**  
Oocyte

# ホームページ開設

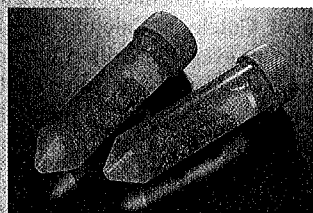
## XENOPUS

- 思われた自然環境の下で育った良質のアフリカツメガエル。

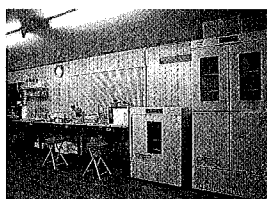


## Oocyte

- 飼育管理に時間をとれない方や、実験を効率よく進めたい方にはOocyteを直送致します。



<http://www.copacetic.co.jp>



## COPACETIC

株式会社コパセティック

〒036-1511 青森県中津軽郡相馬村大字坂市沢113-3

TEL 0172 (84) 3509 FAX (84) 3510

フリーダイヤル：0120-084896

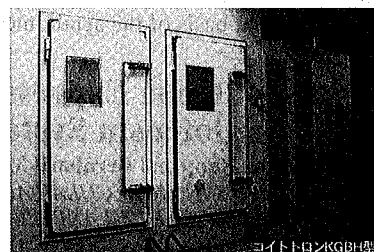
フリーダイヤル ゼノバスはクローン

**Koito**

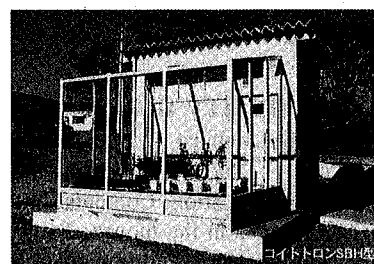
安全と快適を求めて

## バイオ関連の試験・研究を バックアップ

小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能なフィルターユニットとの組み合わせで、実験対象物への空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作をプラスして、高精度な温・湿度を再現します。



コイトロンKGBH型



コイトロンSBH型

バイオハザード対応

グロースキャビネット

コイトロン

SBH/KGBH シリーズ

**小糸工業株式会社**

東京本部 〒108-8723 東京都港区高輪3丁目5番23号(日生高輪台ビル) ☎03(3443)9846 FAX 03(3443)6570  
札幌011(722)5211 東北022(225)7501 大阪06(6263)6371 九州092(431)0838 筑波0298(51)2311 沖縄098(861)1805  
URL <http://www.mmjp.or.jp/koito-environ> メールアドレス [koito-environ@tokyo.email.ne.jp](mailto:koito-environ@tokyo.email.ne.jp)

# Kluwer Academic Publishers

## Calcium: The Molecular Basis of Calcium Action in Biology and Medicine

edited by **Roland Pochet, Rosario Donato, Jacques Haiech, Claus W. Heizmann, and Volker Gerke**

November 2000 Hardbound 752 pp. ISBN 0-7923-6421-X ¥36,000

**Contents:** List of Contributors. Editorial. **Overview:** From Genes to drugs. **Part One: Basic Mechanisms of Action of Calcium.** Calcium and apoptosis. Calcium and cellular aging. Calcium and growth factor. Calcium signalling in excitable cells. Calcium signalling in extracellular matrix. Calcium signalling in non-excitabile cells. Calcium storage and release. **Part Two: Calcium Related Diseases.** Calcium and Muscle disease. Cancer. Inflammatory diseases. Liver diseases. Neurodegeneration. Neurodegenerative diseases. **Part Three: Methodological Chapters.** Calcium imaging, fluorescence microscopy, confocal microscopy. Index.

## Elastic Filaments of the Cell

edited by **Henk L. Granzier and Gerald H. Pollack**

*ADVANCES IN EXPERIMENTAL MEDICINE AND BIOLOGY, Volume 488*

August 2000 Hardbound 436 pp. ISBN 0-306-46410-1 ¥25,020

**Contents:** Elastic Filaments of the Cell. General Discussion I. Molecular Mechanism of Elasticity. Titin-Like Proteins. Functional Role of Elastic Filaments. General Discussion II.

## Molecular Basis of Pancreas Development and Function

edited by **Joel F. Habener and Mehboob Hussain**

*ENDOCRINE UPDATES Volume 11*

December 2000 Hardbound 432 pp. ISBN 0-7923-7271-9 ¥30,300

The purpose of *Molecular Basis of Pancreas Development and Function* is to bring together the many different aspects of and the recent discoveries in the understanding of pancreatic endocrine development and its close links to endocrine cell physiology and dysfunction in diabetes. The intention is to combine the knowledge from clinical observations in certain diabetic syndromes with the rapidly growing insights derived from basic molecular biological investigation. At the end of the book, future impacts of these studies are outlined in which the knowledge that is gained from basic studies will be translated into new forms of treatment for diabetes. It is hoped that this book will serve established investigators, newcomers to the diabetes research community, and clinicians interested in the molecular basis of the syndromes that they encounter.

## Control of Gene Expression by Catecholamines and the Renin-Angiotensin System

edited by **Heinz Rupp and Bernhard Maisch**

*DEVELOPMENTS IN MOLECULAR AND CELLULAR BIOCHEMISTRY Volume 33*

*Reprinted from MOLECULAR AND CELLULAR BIOCHEMISTRY,*

November 2000 Hardbound 240 pp. ISBN 0-7923-7981-0 ¥20,400

**Contents:** Part I: Catecholamine influences on gene expression. Part III: Angiotensin II influences on gene expression.

## Biochemistry and Genetics of RecQ-Helicases

by **David B. Lombard**

November 2000 Hardbound 112 pp. ISBN 0-7923-7984-5 ¥15,000

**Contents:** Dedication. Contents. Figures. Preface. Acknowledgments. **1.** The RecQ-family helicases. **2.** Targeting the WRN locus in the mouse. **3.** Interaction of the BLM protein with Topo III alpha in somatic, meiotic cells. **4.** Nijmegen breakage syndrome disease protein and Mre 11 at PML nuclear bodies, meiotic telomeres. Bibliography. Subject Index.

表示の価格には消費税は含まれておりません。尚、価格は為替レートの変動等の理由により予告なしに変更されることがあります。ご了承ください。

日本総代理店 株式会社 ニュートリノ

本 社：〒182-0024 東京都調布市布田 1-44-3 高橋ビル TEL:0424-84-5550 FAX:0424-84-5556  
e-mail: [neutrino@coral.ocn.ne.jp](mailto:neutrino@coral.ocn.ne.jp) <http://www.neutrino.co.jp/>

# カール ツァイス パーソナルコンフォーカルシステム

## LSM 5 PASCAL

Personal Laser Scanning confocal

New!

新設計の小型軽量化スキャンニング  
モジュール

New!

新開発レーザーコントロール・  
モジュール

New!

ユーザが簡単に交換可能な  
ビームスプリッター、  
蛍光フィルター類



*C. elegans with embryos, autofluorescence + DIC,  
(single frame out of time series), (Sample courtesy  
of Dr. Afq, MBL Woods Hole)*



*Fetal small intestine, double fluorescence, stereo  
projection (Dr. Hashimoto, Jikei University,  
Tokyo)*



*Drosophila brain, neural circuit indicated with  
GFP (Dr. Ito, NI of Basic Biology Lab, Okazaki)*



*Zebrafish embryo, neurons (green), NCAM (red)  
(Dr. Marx, Dr. Bastmeyer, Uni Konstanz)*

- システムはフルオートでコントロール及び設定可能
- 2048 x 2048/12bit/各チャネルの高画質
- DSP 技術を用いた多彩なスキャンモード
- マルチトラッキングスキャンにより、多重蛍光標本の蛍光波長のかぶりを解消
- 多彩な 2D、3D 解析機能と、画像管理に便利なイメージデータベース
- タイムコースソフトウェアによる多彩な時間解析機能、外部トリガ機能

このほかにも数多くの新開発・新設計・すぐれた技術が搭載されております。

輸入/販売元  
**カール ツァイス 株式会社**  
顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町 22 番地  
Tel 03-3355-0332 Fax 03-3358-7554  
URL <http://www.zeiss.co.jp>  
営業所：大阪/名古屋/福岡/仙台

